

西東京市 図書館だより

平成25年(2013年) 7月1日

第50号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



本町小4年

平成二十五年年度 西東京市図書館の重点事業

平成二十五年度の図書館重点事業についてお知らせします。

図書館施設については、公共施設保全計画における耐震化目標達成のため、中央図書館・田無公民館の耐震診断調査を実施します。また、ひばりが丘図書館の空調設備の改修工事を行います。この工事のため、ひばりが丘図書館は十月十五日から十一月十一日まで休館します。ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。

図書館サービスについては、リース期間終了に伴い、来年二月に図書館管理システム及び機器の入れ替えを予定しています。新しいシステムでは図書館ホームページの資料検索を充実させる予定です。現在のWeb検索に対して利用者の方から様々な要望が寄せられています。新システムでは、特に要望が多かった資料検索について、検索方法を多様化する、予測検索表示を追加するなどの改善を図ります。

西東京市図書館では、視覚に障がいのある利用者の方を中心に、デジタル化した図書(デジタル図書)を提供しています。最近では、デジタル図書の扱いやすさ、利便さから利用が急増しています。そこで、今まで作成したカセットテープの中から音質の劣化の少ないものを選んでデジタル図書に変換する事業を行います。デジタル図書のタイトルが増え、利用者の方の選択の幅が広がります。

今日の高度情報化社会の中では、知識や情報を得ることは欠かせないことですし、知る権利は市民のだけれども公的に保障されるものです。図書館は、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」を理念として、市民の知りたい、学びたい欲求を満たせるようなサービスを行っていきたく思います。市民が必要とする資料の充実に努め、市民の学びを支援していくことができる質の高いサービスを提供していきます。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

図書館協議会の意見書

『西東京市図書館における電子書籍のあり方』についてがまとまりました。

二〇一〇年は「電子書籍元年」と言われ、各地の公共図書館でも導入の試行が行われました。その中には、千代田区のように本実施した図書館もありました。そうした状況を受け、西東京市でも電子書籍の導入について検討していくことになりました。

図書館で検討するにあたり、平成二十四年度に図書館長の諮問機関である図書館協議会に「西東京市図書館における電子書籍のあり方」について意見を求めました。一年間の検討を経て、この度、図書館協議会より意見書が提出されました。

図書館協議会委員の中には、電子書籍の状況について詳しい委員がいなかったこともあり、意見書では、電子書籍の現状についてわかりやすく解説されています。また、図書館への提案もいただきました。ご意見は今後の検討に役立ててまいります。

検討の経緯と意見書の概要については、下記の前図書館協議会会長の報告をご覧ください。

なお、意見書「西東京市図書館における電子書籍のあり方について」は、地域・行政資料室にあります。また、図書館ホームページでもご覧いただけます。

意見書

『西東京市図書館における電子書籍のあり方について』
検討の経緯と概要

前図書館協議会会長

服部 雅子

平成二十四年度、図書館協議会は、「図書館における電子書籍導入について意見を求められました。副会長で武蔵野大学文学部教授の小西和信先生による講義で電子書籍の基本的な知識を得、その後の勉強会、見学会で議論を重ね、意見書をまとめました。

一年をかけて電子書籍の現状、国、自治体レベルの取り組み、公立図書館として取り組んでいる先行事例を学び、電子書籍導入にあたって考慮すべきメリット、デメリットを考察しました。

考慮すべき

メリット・デメリット

協議会が検討したメリットとは、
①保存スペースを必要としない②来館せずにサービスが受けられる③二十四時間のサービスが可能④視覚に問題を持つ人、高齢者などへのサー

ビスが向上する⑤より高度な情報探索機能、読書支援機能が提供できる

⑥汚損、破損、延滞、運搬がなくなるなど、資料が扱いやすくなるといった点です。またデメリットとしては、①コンテンツ内容の不十分さと資料数の少なさ(現状ではコミックとライトノベルが中心)②著作権等の諸権利処理の難しさ③資料が割高④相互貸借などの図書館間の協力活動ができない⑤読むための機器やソフトウェアが必要⑥事故による資料消失の可能性が高く、機器やシステムの進歩が早く使用できなくなる可能性があるなど、資料としては短命という点です。

電子書籍の導入は慎重に

結論として電子書籍の導入については時期尚早と判断しました。電子書籍という新しい媒体の画期性、将来性は評価しますが、これからの情報機器の発展、フォーマットの標準化、著作権等電子書籍をめぐる法的環境の整備、コンテンツ市場の成熟を待ち、そしてなにより市民のニーズの推移を見守りながら柔軟に対応するということです。昨今の電子産業の発展を見てもそれほど遠くない時期に再検討を求められるかもしれませんが、近隣の動きに目を配り、市民の要望を吸収しながら、慎重に対応することを希望します。

地域・行政資料の電子化を

それよりも、むしろ今回の検討で、協議会が重要視したのは西東京の地域・行政資料の電子化の問題です。西東京市にしか存在せず、電子化することで利便性が高まるこれらの資料は、ぜひ二十五年度中にも電子化対象資料を選定、電子化の着手順序を決定し、所要経費の算定等を盛り込んだ「西東京市地域・行政資料電子化計画」を策定していただくよう提案しました。

併せて、電子化後の原資料については、西東京市にしか存在しない市民の知的遺産として、保存スペース不足を理由に廃棄することなく、最低一部の永久保存を求めました。保存スペース問題の解決という点ではデジタル資料は有効ですが、その保存面で全幅の信頼を寄せられるほどには至っていません。また、紙媒体の現物が持っている情報すべて(例えば色、手触り、香り等)を再現するものではないという観点から、電子化の推進と並行して従来の紙媒体の保存問題が解決されるよう願ってやみません。



図書館だより版

にんにん西東京

第2回

「西東京市にゆかりのある資料」



図書館では、西東京市出身や西東京市在住など地域にゆかりのある方の著作物を収集し、地域・行政資料室で保存と提供を行っています。合併以前の田無市、保谷市時代から併せて約六千冊を所蔵しています。

他の図書館資料と同様に購入したもののほか、自費出版や発行部数限定資料など貴重な寄贈資料もあります。

西東京市在住の方の資料

西東京市にお住まいだった児童文学作家としては、寺村輝夫さん(一九二八〜二〇〇六年)、高橋宏幸さん(一九二二〜二〇一〇年)、安房直子さん(一九四三〜一九九三年)が知られています。

寺村輝夫さんは『ぼくは王さまシリーズ』をはじめ、『わかったさんのおかしシリーズ』などの料理の話や動物の話、昔話などの作品を執筆され、ご自宅を「王さま文庫」として開放されています。

挿絵画家でもあった高橋宏幸さんは『チロヌップのきつね』『オオカミ王ぎん星』などの作品を執筆されま

した。太平洋戦争中、田無駅前空襲で犠牲となった方々を慰霊する「平和観音像」を主人公にした絵本と紙芝居『タイムスリップ』(二〇〇六年刊)は、西東京市平和の日のイベントでも紹介されています。高橋さんが指導された「田無絵本を考える会」『くる〜ぶ絵本』のみなさんは郷土の昔話などを題材とした大型紙芝居八点を制作し寄贈してくださいました。

『きつねの窓』『ハンカチの上の花畑』『さんしょっ子』『花豆の煮えるまで』などの作品を執筆された安房直子さんは、旧保谷市にお住まいでした。安房直子さんの作品を語り継ぐことを目的として結成された「花豆の会」(一九九二〜二〇一二年)は、花豆文庫として収集した安房さんの作品の一部を平成二十一年に寄贈してくださいました。その中には単行本未収録作品の複写も含まれています。それ以来全国から熱心な安房さんファンも来館されます。

詩人の茨木のり子さん(一九二六〜二〇〇六年)は、写真集『茨木のり子の家』でも紹介された市内(旧保谷市)のご自宅で『見えない配達夫』(一九五八年刊)以降の作品を作られた

そうです。

現在も活躍中の音楽学者でモーツァルト研究の権威、海老沢敏さん、直木賞作家の中村彰彦さん、作家・翻訳家のもとしたいづみさん、小児科医の山田真さんなどの著作物も蔵書となっています。

西東京市が登場する作品

西東京市(旧田無市・旧保谷市を含む)が出てくる作品も地域資料として収集しています。

児童文学作品には、田無駅北口再開発前の駅前通り商店街をモデルとした『日の出マーケットのマーチ』(木暮正夫作・菅輝男絵・一九八五年刊)があります。『戦力外捜査官・姫デカ海月千波』(似鳥鶏著・二〇一二年刊)には西東京市を管轄する架空の「西東京署」が登場します。映画化もされた『レディ・ジョーカー』(高村薫著・一九九七年刊)では田無駅やひばりが丘団地も出てきます。作詞家としても有名な来生えつ子さんは、二十数年間ひばりが丘団地にお住まいでした。『いつでも猫がそばにいる』(一九九八年刊)では、当時の生活や愛猫と通院したひばりが丘動物病院のことを書いています。

新コーナーへどうぞ

これまでご紹介した資料は、中央



西東京市が出てくる本を見つけたら教えてください。

新コーナーのぞいてみてね。



初めて子どもを出産した時、絵本をいただきました。その絵本を生後までもない娘に読んで聞かせたのがきっかけで、私は絵本が大好きになりました。毎日読んで聞かせていると、不思議と育児疲れも和らぎ、心地よささえ感じていたのです。

図書館へ行くのが日課になり、日々成長する娘は、読んでいるそばからページをめくるなど興味を示し始めていきました。娘が一歳のころ、いつもと違う図書館へ絵本の読み聞かせを見に行った時、そこでは絵本サークルの方々が、絵本・手遊び・手袋人形・パネルシアター・工作など盛りだくさん楽しませてくれました。私は一目で気に入って後日サークルに入会、子連れで活動に参加するようになったのです。活動を通して絵本の楽しい世界が広がり、今では子どもたちのまなざしや、笑顔からパワーをもらっています。

あれから五年、まとわりついて歩き回っていた娘も七歳、絵本好

わたしと図書館

鷺野好子

きに育ち、時々私に読んで聞かせてくれます。

そして、最近の私は一人で図書館へ行く時間が増え、絵本以外もいろいろ見るようになりました。ある時『田無市史』の本に目が留まり、縁あって田無へお嫁に来たのだからと読み始めたらはまつてしまったのです。

青梅街道の宿場町の様子や生活様式、市内にお稲荷さんやお地藏さんが散在しているのもいわれがあり、田無のむかし話に出てくるのです。すっかり明治、大正時代へとタイムスリップ。更に昭和になって田無は空襲を受けたこと。今、豊かに暮らしている私たちの足元には多くの悲しみがあったことを知りました。忘れてはならない歴史です。

図書館は私のライフスタイルに欠かせない場所です。これからはもたくさんの本に出会い、心を膨らませて生きたいと思っています。

新しい図書館協議会

新しい図書館協議会委員が左記のとおり決まりました。任期は、平成二十五年五月一日から平成二十七年四月三十日までです。

区分	氏名 (敬称略)
学校教育の関係者	東山 信彦 屋宮 茂穂
社会教育の関係者	山田 尚子 山本 俊明 倉内 正美 川口 順啓
家庭教育の向上に資する活動を行う者	鈴木 綾
学識経験のある者	坂井 秀敏 小西 和信 足立 善朗

なお、会議については、今年度、定例会四回(五・七・一・三月)、臨時会二回、計六回行う予定です。

傍聴可能です。開催日時は『広報西東京』でお知らせします。

平成25年度の特別休館の予定について

今年度、図書館では左記のとおり特別休館を予定しています。

- ① ひばりが丘図書館
空調設備の改修工事を行います。
期間 10月15日(火)～11月11日(月)
- ② 全館
図書館管理システム及び機器の入れ替えを行います。
時期は平成二十六年二月を予定しています。

詳細については、『広報西東京』、図書館ホームページ、館内ポスター等でお知らせします。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

編集後記

二面に掲載した意見書「西東京市図書館における電子書籍のあり方」は、図書館協議会委員の方々が定例会四回、臨時会二回というタイトなスケジュールの中、毎年実施している図書館事業の二次評価も行いながら、調査・検討し作成してくださいました。中心となってまとめてくださった副会長の武蔵野大学教授、小西先生は、電子書籍の分野でも専門家で、意見書は電子書籍に詳しくない方にもわかりやすい内容となっています。委員のみなさま、ありがとうございました。